

中間報告書の書き方

b10xxxxx 未来太郎

指導教員：函館一郎

How to Write Manuscripts for Midterm Report

Taro MIRAI

概要：和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。和文は300から400文字で記述すること。

キーワード：北海道, 函館, 亀田中野, 公立はこだて未来大学

Abstract: English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.English should be written in 100 to 150 words.

Keywords: Hokkaido, Hakodate, Kamedanakano, FUN

1 背景と目的

このサンプルは情報システムコースにおける中間報告書の様式について説明したものである。必ずしもこの雛形を使う必要はないが、仕上がりイメージはできる限りこの雛形にあわせること。

用紙サイズはA4、向きは縦とし、上下の余白は30mm、左右の余白は25mmとする。本文には明朝体とTimes New Romanを用いる。ただし、タイトルや章節の見出し、図表のキャプションはゴシック体とする。タイトルは14ポイント、氏名と章の見出しは12ポイント、節の見出しは11ポイント、その他は10ポイン

トとする。また、和文タイトルから英文キーワードまでは1段、本文は2段で構成とし、1段のセクションは42文字×45行、2段のセクションは20文字×45行とする。

なお、章立てはあくまでも参考であり、これに限らない。

2 関連研究

中間報告書の文量は4ページとする。学籍番号をファイル名としたPDFファイル1つにまとめた形で作成すること。提出するファイル名はb10xxxxx.pdfとする。

句読点は「,」「.」とする。「、」「。」は使用

しない。アブストラクトなど英文表記の部分については、スペルチェックプログラムによるチェックをする。

3 提案する理論

3.1 数式

数式による記述が必要な場合は、式番号を式 (1) のように適切に参照しながらまとめること。

$$f(x) = \frac{1}{2\phi} \exp\left(-\frac{|x-\mu|}{\phi}\right) \quad (1)$$

式は `equation` や `eqnarray` を用いて記述する。式 (2) から (4) は `eqnarray` の例である。

$$2x_1 + x_2 = 5 \quad (2)$$

$$2x_2 = 1 \quad (3)$$

$$x_1 = \frac{9}{4} \quad (4)$$

3.2 図・写真

読者の理解を助けるため、図や表を効果的に利用すること。図1のキャプションは下記のようにする。



図1 画像のテスト

このように、図の下に記すこと。表1のキャプションは下記のようにする。

表1 表のテスト

項目1	項目2	項目3
a	b	c

このように、表の上に記す。

4 実験と評価

参考文献は `bib` にまとめておきました。取得してくる場合には [1][2][3][4] みたいにすれば取得できます。

5 考察

6 結言

参考文献

- [1] ○○△△. marumaru. システム情報科学会論文誌, 2:13–19, 2002.
- [2] A.B.Cdddddd. *J. Systems Information Science*, 11(1145-1159), 2001.
- [3] ○○×× and □□△△. システム情報科学, pages 20–21. ☆☆出版, 1999.
- [4] E.Fggg and H.Ijjj. *Electrical Engineering*, pages 281–284. KKPress, 2003.